

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夕張で平成14年に民間法人としては最初のGH開設して11年経過して、12年目に入りましたが、開設した時の思いが、まだまだ満足できないように思いました。マンネリ化した現状を打破する必要を感じ、ホームを開設した時の思い、心に返る事を目標としました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<一人ひとりの意向や生活歴を把握した支援>
グループホーム「夕張サザンクロス」は、民家改修型のアットホームで居心地の良い環境で、利用者一人ひとりの思いや尊厳を常に最優先に考え行動できるように、職員への教育・指導を行っている。

Large table with 4 columns: サービスの成果に関する項目(アウトカム項目), 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します, 項目, 取り組みの成果 該当するものに印

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念での最期までの記載を介護者へ浸透ができてきているようになって来た。終焉に近い症状の方への、スタッフの思いやりと、細かな報告や連絡を綿密におこなう事で、明らかに、入居者への介護がより細かく、確実に出来る様になって来た。終焉と思われる方が、その思いと、努力で、長い生命になられている。	事業所独自の基本理念を掲げ、「皆で手を握り合って、励まし合って助け合うグループホーム」を目指し、その理念を共有して実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長崎からの事業者として、地元で出身でない事のハンディがあったが、総括施設長の江口が警察友の会会員、交通安全指導員や夕張神社謝恩会員や老人会、元消防団員でもあり、現在は商工会議所役員を嘱して居る為、サザンクロスも町内商工会と自治会も加入して、地域へは冠婚葬祭なども出席など住民や商店街の人たちとも付き合い合っている。昨年まで4年間の地域へは公衆便所の解放など地域貢献の件も理事会され、確実に地域の活動への参加や地元の人々との交流に努めている。食材や文具品なども出来るだけ地元から買う事も心掛けをしている。	地元商店街や商工会議所、消防団への活動参加、安全運転推進委員を引き受けたり、グループホームが地域の一員として日常的に交流している。また、地域で購入できる物は地域で購入したりと、地産地消に努めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のホームとして、町内では、元商工会議所の副会長が相談相手となり話し合いを行い、認知症の地域への理解度を深める為に、いろんな寄合いに出席したりして理解を求めている。飲食関係でも同様である。地元のローカル新聞にも広告を入れ、認知症についての相談もを市民に行っている。地域の方へ介護施設の事業所として、また認知症のみでなく、高齢者への対応や身体障害者の対応についても相談が、頻繁に持ち込まれる。今後も地域の方々が気軽に立ち寄れる雰囲気作りには心掛けている。夕張映画祭の映画の看板を新たに壁につれ付けて、夕張映画祭へ協力貢献をしている。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に一回の定期的な運営推進会議を実施し、市役所職員、包括支援センター職員、町内会役員、博識者、地域商店振興会役員、利用者、法人代表者及び管理者、ケアマネやスタッフで構成し、報告など詳しく写真を使い説明している。参加者委員の意見をサービス向上に活かしている。夕張市民の行方不明などへの、協力も行っている。	2か月毎に運営推進会議を実施し、事業所の取り組み内容の報告や地域との連携等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは1万人を切った市民数のため、老人等が残されている現状でもあり、何かあれば、最大の協力を行う事を常に伝えている為、日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。2ヶ月に一回の定期的な運営推進会議に市担当者及び包括支援センター職員の方が参加され、また何か必要な時は頻繁に連携を充分にとりサービスの質の向上に努めている。市の包括支援職員や市介護保険グループ職員とも、積極的に協力体制を築いているつもりである。	市担当者や地域包括支援センターには事業所の取り組みを積極的に伝えるなどして情報交換しており、協力関係や連携体制が築かれている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄閣の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄閣などの施設は禁止し、自由に気軽に立ち寄れることが出来るよう努めていたが、今年名古屋の認知症の老人が列車の事故で720万円の賠償を裁判で命じられるという判決を新聞で知り、考え方を変えた。「施設しないホーム」を我々は理念としている事が、仮に万が一ホームからすぐの道路に出る事故があった場合は、大事故になる事。それがすべて管理する者へ、賠償が来る事をスタッフには伝えて、理解させ、過去も入居者が今年25年1月に、入居者が計画的に無断でホームから出てしまい、1度目は、帰る事が出来なくて、警察に保護された件があり仕方なく内部での玄閣に鎖で施設を行う事にした。それが身体拘束であれば今回の裁判では矛盾が生じる。	ミーティングや申し送り時等の振り返りの中で、利用者の抑圧感が無かったか確認したり、勉強会を実施して権利擁護や身体拘束廃止について理解し共有化を図っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	官庁主催の講習会に参加し、基本的考えを再度学ぶ、いかなる虐待を見逃さないよう、スタッフなどにも徹底した虐待防止の管理する。介助の身体に虐待形跡が無いかのチェックを常に行っている。高齢者への虐待など「絶対」に見過ごしてはならないという姿勢がホームの精神である。理念として			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持つべきだが、制度の理解まではまだ時間がかかっている。管理者は入居者が日常生活自立支援事業や成年後見制度について利用している為に理解しているので、ホームの職員にも学ぶ機会を持たせたいと思っている。利用者に必要な状態がきたら関係者と話し合いをしている。当然、それらを活用できるよう支援している。今日もまだ満足はいく事は、無い為、反省課題である。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不満が出ない事を、常に心掛けているが、特に利用料の改定時などは、事前に手紙などを郵送し家族等に説明している。不安や疑問点があれば、いつでも十分な説明を時間を掛けて行なう事も、家族等に説明している。そのために入居者家族からの不満は聞かれなくなった。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する利用者、家族等意見が、近年は無かったが、夕張サザンクロスでは若年性の入居者が、自由にしたいとの希望を、家族に言って、相談を受けたりした。意見が出た時点では、対応はしている。今後も利用者の状態変化時の連絡や健康面での相談を話し合い、掛かり付けの医師の意見や家族の意見なども運営に反映している。	苦情や意見の受付についての窓口を重要事項説明書に明記しており、家族や来訪者等が外部に伝えられるような仕組みを構築している。また、そこでの意見は毎日のミーティングで報告し、運営に活かすことも実践している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフへは、いろんな知識を高める事を、管理者やケアマネと開設者でいろんな介護と算数計算も含めて教育と指導している。介護における質問なども、出る雰囲気になっている為、意見も聞き、説明や逆に問いかけも行き、スタッフがレベルアップしている？と思われる。今後もいろんな意見を聞くこととして、提案があれば取り入れる事になっている。	職員の意見・要望・提案などをミーティングや日常業務の中で聞き、職員が発言できる環境を整備している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者として、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努める事によって、ホームのレベルアップに努める様に努力をする事になっている。介護報酬が相変わらず低いながらも低賃金であるが、いろんな努力で、給料を見直し、全員の昇給を行った。また、冬の激雪手当なども3月にはも特別手当として支給し、スタッフへの感謝の証しを示している。またスタッフの高齢もあり、高齢で退職した者への心掛けも、夕張では重要と思われる。夕張の高齢化率が65%となってきた為、一人暮らしの男性スタッフの今後のサポートも、夕張独特の方式で考えて行くことにした。今年は実際に63歳の、男性スタッフが退職後に、栄養失調で孤独死の一手手前の状態で発見し、そのスタッフを助けて、仕方なく、食事が出来る、現在ホームで生活させている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内でケアにおける、その者の能力と力量に応じた実務での優しい言葉での指導が必要と改めた。やさしく分りやすく、資料文書を参考にし、文書での、質問や伝達指導が重要である事を書き入れる事、伝える事の重要性を実践する社内指導を企画しています。例えば、また、その他の研修など積極的に参加を「終焉の家」としての、スタッフの意見を提出させて、それがホームの理念である最期との兼ね合いを再度確認する事も、考える事におこなっている。レベルアップを少しずつ行い、スタッフを育てる意味でも、入居者が極端に言えば、「終焉の家」として、このホームでいかにして、地元の掛り付けの医師と協力し、最期まで介護して行くのか。なども機会を設けて理解と介助をさせる事心掛けています。医療と介護における参考書を買ひ、医療に関する知識なども学ぶ機会を与えます。また入居者が料理を食べられる様子、レクレーションの様子、などを、携帯電話で写メールで、毎日毎日総括施設長に送信して、知らせが出来る様に、ホームに携帯電話を設置しました。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道の夕張という過疎地にホームはある為に、代表者として管理者や職員が同業者と交流する機会を作りが不足していると感じている。近年は講習会等の機会と同業者と情報交換をしているのが現状である。現在は医療機関などと情報交換しケアサービスの質の向上に取り組んでいる。グループホーム全国協議会に加入して、今おかれて居るグループホームの実態を定期便書類で取り、スタッフにも見せています。夕張市役所からも市内の介護従事者を対象に、講習会を企画されているので、同業者同士での交流機会を持ち、ホーム同士の情報を交換している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やスタッフが、入居者本人との日頃の介護等で信頼を得て、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。利用者の話をゆっくり聴き、そばに付き添い入居者との信頼関係が築くよう努力している。理美容などに行きたいなど、自分の意志をはっきりと示す為に、理解し、意思に添うことにしている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	平成16年に開設して平成25年11月で、約10年経過するが、代表者の考え方としての指導は、サービスを導入する段階で、最初に「家族がどんなことで困っているのか？」を聞く事において、まだ不満足を感じる様に思っているため、今後も出来る限り初心に戻る様に勤める事にしている。また「利用料など金銭面など」に関しても、出来る限り要望に答えるよう支援している。当ホームは、家族の居ない、無縁の方が入居されているが、家族と同じ思いで、また人としての最期を安心して迎えられる事への、事業所として出来る限りの努力を行っている。入居者によっては、身元引き受け人も無い入居者もあり、終焉の際のその後の事も世話する事が多いので、入居者の要望も細かく聞いておく事にしている			
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が一番必要としているのか見極め、安心した生活を送れるように、介護していき観察し「出来る事。出来ない事」を見定め、支援している。が、他のサービス利用も含めた対応に努める事も、必要であるが現在無いのが現状である			
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの「理念」にあげている通りであり、利用者の尊厳を尊重しながら支えあう、信頼できる家族同様の関係を築いている。介護されるだけでなく、暮らしを共にする者同士の関係、それがグループホーム本質である。だが、それも我々の自己満足かも知れないと、自問自答しながら、スタッフの自己判断をすること無くうぬぼれる事なく、を今後の我々の課題と思っている			
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	開設して10年経過するが、代表者として、常に「家族」の関係を常に基本として、スタッフへも考えを細かく、伝えて来ている。身元の引き受け人のいる家族の居る者、家族がいても見放されて居る者、無縁の者など、家族の支援はいろんな例が有るが、共に支えて行き事については事業所として出来る限りの努力を行うことと、している。			
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。事へ、つながりの扉を閉じる事なく、支援して行く事を、当然努力している。が、夕張サザンクロスは若年性入居者には、友人も精神的異常者が多く、影響があり、あまり良いものではないと、思う時がある。	馴染みの人や場所との関係が途切れないように、友人・知人の訪問支援や、お祭り等の地域の行事参加の支援に努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内で、入居者同士が、会話や見守りなど、安心して笑顔に、胸を打たれる事もある。一人一人が孤独を味わう事が無いホームが、理想であり、スタッフの入居者への思いやりが、入居者にも伝わっている様な気がした。無言であってもお互いの立場を分かり合っている者同士と思われる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、当ホームとは関係なく、途切れる事が今までの事実であり、現実には行っていない。			
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を把握し、外出や趣味への支援などを本人本位に検討する様に努めているが、理想と現実には難しい事が多い。室内への持ち込み家具等で希望を把握している事もある。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を把握し、職員間で共有をし、行事への参加や散歩や楽しみ等への支援など本人本位に検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護計画書で、分かる範囲で入居者の一人一人のバックグラウンドを調べる事で、これまでの経過を把握する事にしている。また日頃の会話で経過バックグラウンドを知りその人らしく暮らせるよう出来る限り努力して支援しているつもりである。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方の把握は、個人日誌などで行っている。毎日の様子を元に心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2名のケアマネが入居者本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、総括施設長やスタッフなどの意見を取り入れている。本人、家族、必要関係者と話し合いについては、家族の意向は聞く事になっている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の意見や要望、職員の意見・アイデアを出し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に個人日誌などで記録し、スタッフ一人ひとりの入居者への気づきなどを記入している。介護計画の見直しに活かす事で、一カ月のまとめとしての介護日誌なども作成し、介護計画書の見直しに役にたっている。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化については、当ホームは取り組みがまだしていないため、今後の課題となる。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支え、日々の楽しい生活を送れるよう支援しているが、地域資源を把握してはいない為、当グループホームとして、認知症の入居者へどのような支援が出来るのか？を検討課題としている。			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の状況に応じ、これまでの掛付の医師への受診へ同行なども継続しながら、またその他にも適切な医療を受けられるよう1人の掛かり付け医師の支援を受け、毎週水曜日に再起診察に来訪など、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組む様に努力している。定期的に診療に来訪されている為、適切な医療を受けられるように支援している。健康状態や急変時など24時間かかりつけ医師に報告し、協力病院に依頼など、適切な医療を受けられるように、万全な体制で安心した入居者への支援を行なっている。	安心して暮らせる中の一つとして馴染みの先生への受診を優先し、職員が北広島市へ同行する等希望に沿ったサービスの実践や定期的な応診を受けられるようにしており、適切な医療を受けられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療加算の手続きはしていない。かかりつけの医師がその代わりをされている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、直接看護師や医師と病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。夕張では入院施設が無く、岩見沢労災病院や岩見沢市立病院へ搬送して入院となっている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行う事を、行う様になっている。看取りに関して契約書に明記し、家族に同意書もいただき、職員にもホームの方針を説明している。また、身寄りが無い入居者に関しては、事業所として、ホーム開設以来の考え方としては、「人としての最期を誠意を持って行うことを、当ホームでの基本としている。無縁の方が年間に数名、死去されているが、考え方通りに、すべての事、葬儀及び納骨までの期間の安置を総括施設長がスタッフに指示し、行っている。理念での書き入れどおり、長年の歴史でもホーム入居者がグループホームとは最期までの介護が当然であるべきであるとしている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら看取りを実践している。また身寄りのない利用者の葬儀から納骨までの一連を執り行うなど安心して終焉を迎えられる取り組みもしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応法を定期的に訓練し、初期対応がスムーズに行えるよう常に訓練しているが、それでも不足であると思われる。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当ホームは、1ユニットの民家改造型のグループホームです。火災だけが災害ではないために、入居者の災害の避難訓練においては神経質になっている。毎週一回は火災設備を利用した「避難訓練」を行っている。スタッフが疲れる事もあるが、入居者の命を守る為には必要な事であり、説得をしている。施設長以下2名の甲種防火管理者講習を受け、地域の火災・避難訓練や地域の災害訓練に参加し日頃より実技を行っている。また江口総括施設長は現役の消防団員である。夜間はスタッフ一人体制であり避難が困難と想定して、近隣の住民にも協力を願っている。田中友紀子ケアマネジャーは、夕張市内に住んでいる為に、すぐにも駆けつけられる態勢にして、24時間携帯電話を肌身離さず置き、夜間でも携帯電話を通信可能として約7分で駆けつける事になっている。	毎週、火災設備を利用した避難訓練を実施し、緊急時に速やかに対応できるようにしていると共に地域の火災避難訓練や災害訓練に参加して実技訓練を重ねている。また、夜間の災害を想定した訓練等も実施し、近隣の住民も参加して協力体制を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、スタッフへ新人研修で一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮した言葉かけを行う事を教育している。	新人研修時等を通じて、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉や対応にならないよう努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、利用者の希望や思いを把握して一人ひとりのペースを大切にしているし、自己決定できるように働きかけている。が、長年ホームに入居している人が多く、自由な為、結構自己主張が多すぎる。事もある。が「自由に言える、のについては、それもありがたい事であるかも知れないと思っている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先せず、利用者の希望に出来る限りそって支援している。が、身体を動かない事があるため、毎日時間を決めてスタッフと触れ合い活動で変化のある日常の暮らしとしている			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの個性に合わせ、その人らしくおしゃれが出来るよう取り組んでいる。散髪にも希望者は行ける様にしている。衣服も個人の意志を尊重して自由にしてもらっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう好みなどを取り入れ、栄養バランスにも気を使っている。が入居者の希望より、スタッフの食べたい希望を取り入れる為、スタッフがタンスの様になりつつある。一週間に2日は利用者と職員と一緒に手作りギョウザやハンバーグ等、食事作りをしている。	食事が楽しみなものになるように、一人ひとりの好み等を配慮しながら、職員と一緒に手作り料理をしている。また、おやつもふかしイモなど手作りのものを中心にして支援している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をし、個人に応じた食事量と1日の水分量などを日々の記録に明記している。一年中、生野菜だけは摂取が基本としている。料理は技量もあるが味においては努力の要素がある。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本のご誤の恐れもあるために、夜食後に口腔ケアは行う。また本人の力に応じた口腔内の清潔保持に努めている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的時間的にでなく、一人ひとりの排泄パターンを把握し、支援する事により、一人一人の失禁を出来る限り少なくなるよう支援している。	自尊心に配慮し、排泄チェック表を活用して一人ひとりの排せつパターンを把握し、トイレで排泄ができるように時間を見計らって支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的ホーム内でのレクリエーションで、無理のない体操などの運動を行い、便秘予防に努めている。毎日便の状態を詳しく(色、堅い柔らかい?回数)排尿も色、回数の確認をしている。便秘の理由も原因等をスタッフのミーティングで報告などをして、一人一人の様子を把握することに、指示をしている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は月水金の週3回としているが、状況に応じて入浴出来ない者へは「足湯」を行っているが、足湯の設置をする事になってから数年たつが、足湯が入居者の楽しみになっている。入浴は一人ひとりの希望に沿った湯温度に設定している。	入浴は、本人の希望やタイミングや生活習慣に合わせて週3回を目安に行っている。また、足湯を継続して支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由な生活が出来る事が当ホームの特徴であるため、休憩したり安心して休まれるよう一人ひとりにあった生活環境を最善の提供している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後内服薬の確認をし、副作用などの変化に注意し用法などの理解をしている。ミーティングで説明等をしている。また間違った服薬がスタッフに無い様に、入居者の薬を一人一人分かりやすくしている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から趣味や生活歴を、なにげなく聞き出し、その過去を思いだしたりした、生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、の会話等で、楽しみごとにつながるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などを行い季節の行事を企画し、花見など行事の中に取り入れ外出の機会を多くしている。入居者もある者は高齢になりあまり外出されない。ある入居者は外に出たいとの希望がある。入居者と共に出掛ける等は行なっている。春になれば近隣の散歩などもしている事を、自立する意味で、支援している。入居者が家族と外出する要請にも、すべて支援している。	利用者それぞれの希望に添い、季節に合わせた行事の企画をして外出の機会を作っている。また、散歩や買い物などの要望にも応えており、地域のお祭りなどの行事にも参加できるように支援している。冬期間には麻雀大会や折り紙などのレクリエーションを行い外出の機会が減ってしまうための対策として、楽しみごと支援を行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を持つことはしていないが、欲しい物があれば、一緒に買いに行き、ホームで立て替える方式にしている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など自由に利用している。手紙なども投函が困難の方はスタッフのほうで投函している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、ガラス窓であり、四季折々の流れが感じられる様になっている。例えば前方の山が山々の桜や紅葉が見られる部屋に隣、季節感のはめ込み絵の様になっており、利用者にとって極楽の場所である、また共有空間では室内と室外に犬を飼って、入居者の癒しに繋がっている。	リビングや廊下には、地域の行事に参加したときの写真を掲示したり季節に応じた飾り付けをするなど居心地良く過ごせる工夫がされていて、安心して暮らしていける共有空間になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	民家を改築して家庭的な雰囲気の中で生活していただけるよう支援している。気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。入居者同士のトラブルも無い。女スタッフ同士のトラブルも昔はあったが、今は何も無くなって逆にさみしい思いもある。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、居心地よく過ごしてもらえるよう工夫している。	使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれており、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全性を考えながら、出来る限り役割がある。犬の世話も、普段は「言葉も発すことが無い人」が、自分の勤めであるかのごとく、犬の糞や餌をやる事を毎日の仕事とされている。入居者に取っては「分かりやすい事をも目的とした表示」を付けたりして、一人ひとりに合った生活環境を整えている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	53	居心地の良い共有空間づくり	・一人ひとりが思い思いに過ごせる様に支援	・男性利用者と麻雀大会の実施 ・第二、第四火曜日に習字教室を開催する ・レクリエーションの中身を度々変えて気分転換をする。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。